

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、持ち直しのテンポが緩やかになっている」

項 目	前回（6年4月判断）	今回（6年7月判断）	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直しのテンポが緩やかになっている	

（注）6年7月判断は、前回6年4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、観光が緩やかに回復しているものの、スーパーやコンビニエンスストアが底堅いものとなっていることから、全体としては持ち直しのテンポが緩やかになっている。生産活動は、汎用・生産用機械で持ち直しのテンポが緩やかになっているものの、食料品が緩やかに持ち直しているほか、非鉄金属が回復しつつあることから、全体としては一進一退の状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項 目	前回（6年4月判断）	今回（6年7月判断）	前回比較
個人消費	持ち直している	持ち直しのテンポが緩やかになっている	
生産活動	一進一退の状況にある	一進一退の状況にある	
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	
設備投資	5年度は前年度を上回る見込み	6年度は前年度を上回る見込み	
企業収益	5年度は減益見込み	6年度は増益見込み	
企業の景況感	現状判断は「下降」超	現状判断は「下降」超	
住宅建設	前年を下回っている	前年を下回っている	
公共事業	前年度並みとなっている	前年度を上回っている	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「持ち直しのテンポが緩やかになっている」

スーパーは、飲食料品は堅調であるものの、衣料品が弱い動きとなっていることから、全体としては底堅いものとなっている。コンビニエンスストアは、米飯類や飲料等に動きがみられるものの、買上点数の減少などから、全体としては底堅いものとなっている。ドラッグストアは、飲食料品や化粧品等に動きがみられることから、全体としては順調となっている。家電大型専門店は、エアコンや一部の高付加価値製品に動きがみられるものの、全体としては弱含んでいる。ホームセンターは、季節商品や防災用品に動きがみられるものの、全体としては底堅いものとなっている。百貨店は、高額品等に動きがみられるものの、衣料品が弱い動きとなっていることから、全体としては底堅いものとなっている。乗用車の新車登録・届出台数は、普通車、小型車、軽乗用車のいずれにおいても前年を下回っている。観光は、外国人観光客の増加により、緩やかに回復している。国内旅行は、回復しつつあり、海外旅行は、緩やかに持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 中食需要が順調で総菜の動きは引き続きよい。(スーパー)
- 節約志向の高まりなどから、衣料品の動きが鈍くなっている。(スーパー)
- 割引を行う日にお客様が集中する傾向が続いており、少しでも節約したいという消費者意識がうかがえる。(スーパー)
- 販売促進効果などから、ペットボトル飲料の売行きがよい。(コンビニエンスストア)
- 物価高騰に伴う消費意欲低下により、買上点数が前年割れを起こしている。(コンビニエンスストア)
- 冷凍食品について、当社オリジナル商品の売上げは前年を上回ったが、相対的に高価なメーカー品は大きく前年割れとなった。(コンビニエンスストア)
- 売場面積を大幅に拡大するなど、特に販売促進に注力している冷凍食品の売上げが引き続き伸びている。生鮮食品も好調。(ドラッグストア)
- 外出機会やマスクを外す機会が増加したことで、化粧品の売上げは着実に回復傾向にある。(ドラッグストア)
- 昨年より気温が高かったことや新生活需要から、エアコンの売上げが前年を上回っている。(家電大型専門店)
- 家事の時短に資するドラム式洗濯乾燥機等の人気は継続しているものの、消費者意識は旅行などに向いており、客数は減少。(家電大型専門店)
- 気温が高い日が多く、エアコンや空調服、夏用化粧品等が好調。(ホームセンター)
- キャンプ、アウトドア商品については、アフターコロナの行楽需要に一服感がみられる。(ホームセンター)
- インバウンドの増加などから、ブランドバッグなどの高額品や化粧品が好調。(百貨店)
- 衣料品は「現物は店舗で見て、買うのは(価格の安い)インターネット通販」というお客様も多いのではないかと。(百貨店)
- 自動車メーカーの出荷・生産停止の影響により、登録台数は減少傾向であったが、足もとでは持ち直しの動きがみられている。(乗用車)
- 円安により、アジアや欧米からのインバウンドが好調。(観光)
- 新エリアの開業もあり、引き続きテーマパークが人気。(旅行)

■ 生産活動 「一進一退の状況にある」

食料品は、堅調な需要を背景に、緩やかに持ち直している。非鉄金属は、堅調な需要を背景に、回復しつつある。汎用・生産用機械は、一部に弱さがみられることから、持ち直しのテンポが緩やかになっている。パルプ・紙は、印刷用紙等に弱さがみられることから、弱含んでいる。

- インバウンド増加によりホテルバイキング向けが更に好調。人手不足の外食産業への当社製品置き替え提案が奏功。(食料品)
- 原材料仕入れの正常化から生産量は増加。(非鉄金属)
- 部品不足による製造期間延長により生産量が減少。(汎用・生産用機械)
- 新聞・印刷用紙は、ペーパーレス化、デジタル化など社会の流れによる需要減が続いている。(パルプ・紙)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は横ばいとなっている。新規求人数は前年を下回っている。法人企業景気予測調査の従業員数判断BSIをみると、6月末は全産業で36.6%ポイントと「不足気味」超となっている。

- 需要が好調な宿泊業、飲食業、従来からのドライバー不足に加えて2024年問題の影響がある運輸業、さらに企業の人手不足をうけた労働者派遣業などで人手不足感が強い。(労働局)
- 物価高の影響でより賃金の高い仕事を求めて求職する人や、休日の日数など福利厚生面を重視して求職する人が増えている。(労働局)
- 今までは高卒を中心に採用を行っていたが、予定していた人数を採用できなくなっているため、中途採用に注力している。(生産用機械器具製造業)
- 利用者が増加していることから人手不足となっており、レストランに定休日を設けるなどの影響が出ている。(宿泊業、飲食サービス業)

■ 設備投資 「6年度は前年度を上回る見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年4-6月期

- 製造業及び非製造業で前年度を上回る見込みとなっており、全体としても前年度を上回る見込みとなっている。

■ 企業収益 「6年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年4-6月期

- 非製造業で減益見込みとなっているものの、製造業で増益見込みとなっており、全体としても増益見込みとなっている。

■ 住宅建設 「前年を下回っている」

- 新設住宅着工戸数でみると、貸家は前年並みとなっているものの、持家及び分譲は前年を下回っており、全体としても前年を下回っている。

- 建築資材の価格高騰や人口減少により、需要が低迷した状況が続いている。(専門サービス業)

■ 公共事業 「前年度を上回っている」

- 前払金保証請負金額でみると、国及び県は前年度を下回っているものの、独立行政法人等及び市町村は前年度を上回っていることから、全体としても前年度を上回っている。

3. 各県の総括判断

	前回 (6年4月判断)	今回 (6年7月判断)	前回比較	総括判断の要点
香川県	持ち直している	持ち直しのテンポが緩やかになっている		個人消費は、持ち直しのテンポが緩やかになっている。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直している。
徳島県	持ち直している	持ち直しのテンポが緩やかになっている		個人消費は、持ち直しのテンポが緩やかになっている。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。
愛媛県	持ち直している	持ち直しのテンポが緩やかになっている		個人消費は、持ち直しのテンポが緩やかになっている。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、持ち直しの動きに一服感がみられる。
高知県	持ち直している	持ち直しのテンポが緩やかになっている		個人消費は、持ち直しのテンポが緩やかになっている。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。